

中国の小学校における漢字教育に関する考察 —漢字政策及び教材の視点から—

陳 卓君

千葉大学大学院人文社会科学科博士後期課程

本研究では、中国の小学校における漢字教育の現状と課題を明らかにするために、中国の最新の小学校における漢字教育の政策「全日制義務教育語文課程標準（実験稿）」及び漢字教材「義務教育課程標準実験教科書」のあり方について分析している。分析の結果として、中国の漢字教育の特徴が明らかになった。たとえば、漢字教育の工夫点として「政策によって、識字能力を強調し、漢字で言葉を表現する能力に関する政策はまだ実現されてない」「教材の編集システムは改善する必要がある」「漢字と関連する漢字文化に関する歴史・知識も取り入れる必要がある」など、見直す必要があることが分かった。

キーワード：中国、小学校、識字、書写、漢字政策

1. 研究の背景

中国は漢字の母国である。中国文字研究会の呉振武¹（ウー・ジェンウー）会長は「われわれは1人1人が中華文化の継承者。漢字をしっかりと覚えることも重要な文化の継承」と指摘している。しかし現在、中国では漢字の識字や漢字の文化に関する教育が非常に厳しい状況となっている。中国政府内で「国民の書く能力が低下している」と報告されるなど、この問題に危機感を募らせている。そして、学校現場でも、中国教育部は「漢字健忘症」にかかっている学生の増加を指摘した。

その問題については、複数の原因がある。たとえば、受験戦争文化を挙げ、子どもたちの頭の中が「数字と英語でいっぱい、若者が過度に電子機器を使用すること」などである²。このように、整理する方向と方法は簡単ではないと考える。筆者は、まず漢字教育の基礎である漢字政策と漢字教材から調査したい。中国では、漢字教育は「識字教育」という。第2次世界大戦後の中国では、農民を中心とする非識字者をなくす大衆識字運動が盛んに行われる一方で、学校教育では、「教学大綱」や「課程標準」に定められた漢字教育の方針に基づいて様々な指導上の工夫が凝らされた。現在中国の子どもたちは、漢字を「語文」という科目で学習している。

2001年に告示された「全日制義務教育語文課程標準（実験稿）」は3つの部分と付録からなっている。第1部の「前言」は「課程の特徴とその位置」「課程の基本

理念」「課程標準計画の構想」の3項目、第2部の「課程目標」は「総目標」と「段階目標」の2項目、第3部の「実施提案」は「教材編纂提議」「課程資料の開発と利用」「教学建議（教育案）」「評価建議（評価案）」の4項目、付録は「優秀詩文暗誦推薦目録案（計160編）」「課外読書案」「文法修辭知識の要点」の3項目から構成されている。

第2部の「課程目標」の「段階目標」は、「識字と写字」「閲読」「作文」「会話コミュニケーション」「総合的学習」の5項目からなっている。各段階における「識字と写字」内容を通じて中国の漢字に関する主張が見られる。たとえば、1992年の「識字と写字」は「語彙を理解、識別、分析する力を養う。識字力を育成し、漢字、語彙の運用を重視する。」ということを目指した。そして、2002年の「識字と写字」は、「認識字数と書ける字数に差をつける。漢字学習に対する興味の喚起に力を入れる。」ということを目指した。このように、国家教育部の漢字教育に対する方針・特徴を捉えることができる。

また、1949年の建国から2001年まで、語文教科書は「語文教学大綱」に基づいて作成されており、2001年から「語文課程標準」によって編集されている。現在、課外読み物や練習問題集など副教材の使用が多くなっているが、教科書は授業において相変わらず中心的な位置を占めている。「語文」教科書に関する研究を通じて、編集者の漢字教育に関する考え・意図と検討を行う。同時に、教科書を使う漢字教育現場の様子も推測することができる。

2. 研究の目的と方法

Zhuojun CHEN : Investigation of Chinese Character Education in Primary School in China –The Viewpoint of Chinese Characters Policy and Teaching Material
Graduate School of Humanities and Social Sciences,
Chiba University

2.1. 研究の目的

本研究は、中国の小学校における漢字政策及びそれに基づいた漢字教材の整理、分析を通して、中国の小学校における漢字教育の特徴と実態を究明する。また、調査の結果を分析し、漢字政策と漢字教材における中国の漢字教育の問題点を指摘する。

2.2. 研究の方法

まず、中国の最新小学校漢字教育政策「全日制義務教育語文課程標準（実験稿）」の構成と中心内容を整理する。特に、その中の「識字・書写教育」の内容について調査する。各段階の目標、漢字について具体的な要求を把握する。そして、以前の「識字・書写教育」と比較し、現在の漢字教育の特徴と問題点を指摘する。

また、漢字政策に基づいた漢字教材—「義務教育課程標準実験教科書」—『語文』第一冊（1年上）を調査する。具体的には、『語文』第一冊（1年上）の構成、漢字を知る方法、漢字を理解できる文章、漢字を書く内容の設定など、漢字を習得する部分を整理、分析する。そして、漢字政策と結び付いている『語文』第一冊（1年上）の特徴と課題を明らかにする。

3. 漢字政策の調査及び結果

3.1. 「全日制義務教育語文課程標準（実験稿）」（2001）

中国では、教育課程の基準は国（教育部）が定めており、これを各省、自治区、直轄市が地域の实情に合わせて調整し実施することになっている。しかし実際は、多くの地域において全国同一の基準が実施されてきた。運用面の画一性が問題視されていたにもかかわらず、長年にわたって暗記中心の詰め込み教育がなされ、地域の实情や児童生徒の発達段階に対応できていなかった。

また、1990年代には過熱した受験競争があったため、「応試教育（受験教育）」が中心となっていた。「詰め込み教育」「受験教育」への反省から教育内容や指導方法など諸方面の問題点を改善しようとして、21世紀に入って最初の年に基礎教育課程改革が行われた。

2001年に告示された「全日制義務教育語文課程標準（実験稿）」は三つの部分と付録からなっている。第一部の「前言」は「課程の特徴とその位置」「課程の基本理念」「課程標準計画の構想」の三項目、第二部の「課程目標」は「総目標」と「段階目標」の二項目、第三部の「実施提案」は「教材編纂提議」「課程資料の開発と利用」「教学建議（教育案）」「評価建議（評価案）」の四項目、付録は「優秀詩文暗誦推薦目録案（計160編）」「課外読書案」「文法修辭知識の要点」の三項目から構成されている。「前言」では、「現代社会は良好な人文的素養と科学的素養を必要とし、創造的精神を備え、協調

性があり、視野の広さを具えた公民を求めている。読解力、理解力、表現力およびコミュニケーションなどを含めた多様な基礎能力や現代技術を利用した情報処理能力も必要とされる。語文教育は現代社会に必要とされる新しい人材育成に大きな作用を及ぼす。社会の発展の必要性に伴い、課程目標と内容、教育理念と指導方法、評価方式と評価方法などの面で系統的な改革を行わなければならない」と基礎教育課程改革の理由と意義が明記されている。

「課程の基本理念」では、「学生の総合的な語文素養の向上」「正確な語文教育の特徴の把握」「自主的かつ協力的で、探究型の学習方法の積極的な取り入れ」「開放的かつ活用力のある語文課程の建設に努める」の四項目が書かれている。

「課程標準計画の構想」では、「課程目標は九年一貫制をとる。課程標準は総目標の下で、1～2年、3～4年、5～6年、7～9年の四段階に分け、それぞれの段階目標を定め、語文教育の総合性と段階性を具体化する」と記されている。

第二部の「課程目標」の「段階目標」は、「識字と写字」「閲読」「作文」「会話コミュニケーション」「総合的学習」の五項目からなっている。各段階における「識字と写字」の内容を表1に示す。

そして、各時代における識字教育の比較をするため、筆者が1950年から2001年までの教学大綱を整理した。以下の表2で表す。

3.2. 調査結果の考察

表1に示したように「多くの漢字を認識し、その一部を書けるようにする」という方針は、漢字を書く時間を減らし、できるだけ多くの漢字を読めるようにし、多くの知識に接する機会を与えるためのもので、その背景には21世紀に入ってからの「読書ブーム」と情報機器の普及があったと考えられる。一方、この課程標準では、初めて「漢字学習が好きになり」「漢字学習に強い興味を持ち」といった学習意欲を喚起する文言が現れた。また、「自主的な学習習慣」「自力で漢字を習得する能力」の育成に重点が置かれ、「課程の基本理念」に掲げられた「総合的な語文素養の向上」「自主的かつ協力的で、探究型の学習方法の積極的な取り入れ」に呼応している。書写指導では、書写の姿勢や良好な習字習慣の養成などが求められ、「漢字の形の美しさを感じさせる」「漢字の美しさを感じ取る」といった文言も随所に見られる。学習者に漢字への美意識を感じさせることは、書写だけでなく、漢字学習に対する興味・関心の喚起にも繋がると思われる。

2001年版の課程標準の特徴としては、①識字指導、読解指導、作文指導、課外活動指導（総合的学習）

を通じて、漢字力、読解力、理解力、表現力、コミュニケーション能力などといった基礎的基本的な「語文力」を育むことに重点を置いた、②学習者主導型の教育方式を明確にした、③学習数値目標（漢字配当数や九年間の400万字以上の授業外閲読総量、160編の古体詩暗誦など）を提示した、④識字のみならず、閲読や作文などに興味・関心を抱かせるように工夫した、などを挙げることができる。

そして表2で、1950、1956年版では漢字指導を読解指導の一環として位置づけ、読み書き能力を同時に身につけさせようとする事実が見られたが、2001年版における認識字数と習得字数に差をつけるといった読み書き分離指導は、日本の1968年版小学校学習指導要領の「読み先行、書き追従」³⁾の指導方針に似通っている。「読み書き同時指導」から「読み書き分離指導」へと移行したのは、漢字の読み書き能力より漢字、語彙の運用力の育成を重視するようになったからであろう。漢字、語彙の運用力を高めるために、書ける字数を減らすことで学習負担を軽減し、その分様々な言語環境の中で漢字、語彙を使用する機会を増やすことを選択した結果だと思われる。

課題としては、次の4点があげられる。

①政策によって、識字能力を強調し、漢字で言葉を表現する能力に関する政策はまだ表現されていない。具体的どのような方法が使用され、「漢字学習が好きになり」「漢字学習に強い興味を持ち」といった学習意欲を喚起するのかがまだ説明不足だと考えられる。

②硬筆で正しく書くことが望まれているが、毛筆で漢字を練習する政策はあまりない。中国と比較すると、日本は書写教育の中で毛筆を扱っている。小・中学校はいずれも必須教科の国語の中で書写が扱われて、毛筆の指導は小学校の3年生から6年生まで、各学年30時間程度行うこととなっている。

現在の中国教育部（教育省）は、「中・小学校の書道教育の推進に関する意見」を提案しており、これから中国における書道教育を徹底・具体化する過程で数種類の教材が実際の教育現場で使用されるに伴い、最前線でフォローアップをしていき、適時に問題を発見・解決し、中国古代の知恵や隣国・日本のノウハウを絶えず学び、書道教育という新しい課程を小・中学校教育の中に規範的な形で根付かせていく必要がある。

③数値目標が明確に記載されているため、具体的な授業設定がしやすくなる反面、児童生徒は授業外に長時間の勉強を強いられかねない。また、詩歌の暗誦は知識の蓄積や語彙の拡充、豊かな表現力を育成するのに役立つが、丸暗記という従来からの指導法を観賞力の深化や文学に対する興味・関心に結びつけていくことは、容易ではない指導上の課題であろう。

④表2を見て分かるように、漢字識字量は2001年の政策以前、頻繁に変更されてきた。たとえば、1950年の「3000字」、1963年の「3500字」、1992年の「2500字」などの字数である。

4. 漢字教材に関する調査

中国では従来、「語文教学大綱」（日本の学習指導要領に当たる）の基準に基づいて、人民教育出版社（国家教育部の直属機関）が全国共通の国語教科書を1種類だけ作成していた。しかし、各地域の多様な需要や、生徒の多様な学力に対応するため、1986年大綱の実施とともに、1980年代後半から、教科書を多様化する改革が進められ、国定制教科書の時代から検定制へと移行している。

中国の小学校の語文教科書は、各学年上下2冊に分冊されており、計12冊となっている。代表的な人民教育出版社の教科書で見ると、サイズはいずれもB6判横書きである。教材本文の場合、1年生の教科書の1頁約25字、頁数は150頁となっている。

中国の義務教育課程では、学費は無料であるが、教科書は無償ではない。人民出版社版の教科書は一冊あたり6.55元である（2014年現在、日本円に換算すると100円弱）。一方、課外問題集や入試対策などを見ると、この価格で買える書籍はほとんどない。このような事情を考えると、教科書の作成と販売は全国の小学生が入手できるように廉価を旨としていることがわかる。

今回研究の対象とした版は、2001年「全日制義務教育語文課程標準」に基づいて作られた『語文』（1年上）を取り上げて研究対象とし、中国の国語教科書の漢字教育について明らかにする。

4.1. 『語文』第一冊（1年上）

中国の学期は2学期制で、1学期は2月～7月、2学期は9月～1月である。『語文』第一冊（1年上）は1学期で使用される。以下に概況を述べる。

『語文』第一冊（1年上）には、「入学教育」、「ピンイン」、「識字」、「テキスト」の4つの部分が含まれている。「入学教育」には4つの絵があり、子どもが学校と勉強を好きになるような教育が行われる。「ピンイン」には13の本文がある。「識字」には4つの本文が2セットあり、それぞれを学習する。「テキスト」には全部で20の文章がある。本文を5つ学習するごとに練習問題として「言葉コーナー」が設定されている。「言葉のコーナー」は話す訓練、聴く訓練という内容が組み合わされている。そして、教科書の巻末には、学習した漢字がまとまっている「漢字表」が2つあり、「漢字表1」には読めるようになるべき漢字がまとまっており、「漢

字表 2」は書けるようになるべき漢字がまとまっている。

表 1 2001 年版課程標準における識字・書写教育⁴

| 項目 \ 学年 | 第 1 段階 (1~2 学年) | 第 2 段階 (3~4 学年) | 第 3 段階 (5~6 学年) |
|---------|--|--|---|
| 識字教育 | 漢字学習が好きになり、常用漢字 1600~1800 字を認識し、そのうち 800 から 1000 字を書けるようにする。 ピンインをマスターさせる。ピンインの補助により漢字を読めるようにする。ピンイン検索、部首検索で辞典を引けるようにし、1 人で漢字学習ができるようにする。 | 漢字学習に強い興味を持ち、自主的な識字習慣を身につけさせる。常用漢字 2500 字を認識し、そのうち 2000 字を書けるようにする。 字典、辞書を使えるようにし、自分が識字ができる一定の能力を見につけさせる。 | 自力で識字する能力を高める。常用漢字 3000 字を読めるようにし、そのうち 2500 字を書けるようにする。 |
| 書写教育 | 漢字の基本筆画と常用の偏旁部首を把握させる。筆順に従い、硬筆で字を書かせる。筆画の配り、構成に注意し、初歩的に漢字の形の美しさを漢字させる。 | 硬筆による楷書に熟達し、規範的で正しく整った漢字をかけるようにする。 筆で手本を模写する。 | 硬筆で楷書を書き、字配りに気をつけ、一定の速度で書けるようにする。 筆で楷書を書き、習字によって漢字の美しさを感じ取る。 |

表 2 各年代の課程標準における識字・書写教育⁵

| 告示年 | 識字教育 | | |
|------|--------------------------|---------------------------------|--|
| | 習得字数 | 基礎知識の育成 | 特徴 |
| 1950 | 3000 字 | 明記なし | 漢字指導を読解指導の一環として位置づける |
| 1956 | 3000 字~3500 字 | 筆画の名称、漢字の構成、常用の偏旁部首を指導する | 漢字指導を読解指導の一環として位置づける |
| 1963 | 3500 字 | 筆画の名称や書き方、筆順の規則を指導する。 | より細かく指導内容を提示し、運用の中で漢字、語彙を定着させていく |
| 1978 | 3000 字でその大体習得させる。 | 筆画の名称、漢字の構成、常用の偏旁部首を指導する。 | 第 1~3 年で、漢字集中的に指導し、「独学力」の育成を重視する。 |
| 1992 | 2500 字 | 筆画の名称、漢字の構成、筆画の配り、常用の偏旁部首を指導する。 | 語彙を理解、識別、分析する力を養う。「識字力」を育成し、漢字、語彙の運用を重視する。 |
| 2001 | 認識字数 3000 字、書ける字は 2500 字 | 筆画の名称、漢字の構成、筆画の配り、常用の偏旁部首を指導する。 | 認識字数と書ける字数に差をつける。漢字学習に対する興味の喚起に力を入れる。 |

4.2. 『語文』第一冊(1年上)における漢字教育の内容

この教材は、学習者が 400 個の漢字を知り、その中の 100 字を書けるようになることを求めている。知る漢字は、それぞれ三つに分けられている。1つはピンインと結び付き、70 字を知るということを求めている。2つは「識字」の中で、105 字を知るということを求めている。3つは「テキスト」の中で 225 字を知るということを求めている。書ける漢字は、「識字」と「テキスト」の練習問題の中の各所で広く扱われており、各本文 3~4 字があり、全部 100 字である。

そして、識字の形式は多い。主に以下いくつの形式をあげる。

① 漢字構成の規律を体現する

象形字を扱う「口耳目」という教材があり、会意字を扱う「日月明」という教材がある。子どもは教材の中から漢字の特徴を理解することができ、そして簡単に漢字の作る時の規律も理解できる。

② 韻文⁶識字。

「一去二三里」という詩があり、一番簡単な 10 個の漢字を学ぶ。「比一比」というテキストを手配し、物事の大小と多少の比較することを通じて、漢字を知り、同時に助数詞を知る。

③ 物事を分類することを通しての識字

漢字と子どもの生活とを緊密に結びつけ、家庭生活を反映する「家にいる」は、家であるものを知ることを通じて漢字を学んでいる。学校生活を反映する「運動場にいる」は、各運動の項目を通じて漢字を勉強する。

たとえば、図1は第一冊(1年上)の1「一去二三里」は童歌で、入門教材である。一年生の国語第一課は詩であり、詩で漢字の数字を学習する。図2では、二人の子どもが目に見える光景を数字で教えている。詩の中の助数詞(里、家、座、枝)も教材である。子どもたちは詩と絵を見ながら、数字に対応する図案を探す。そして、「背誦」をくり返しなが、詩のリズムによって漢詩の語感を学んでいく。右の絵は数詞の練習ドリルである。子どもたちのシャツとボールに数字(算用数字と漢数字)が書かれている。親しみやすく工夫された入門期教材である。

そして、図3は『語文』第一冊(1年上)の書写教材の最初の練習ページであり、「識字」、「テキスト」の本文から把握すべき漢字を整理する。その中で、まず「整字練習」という漢字を書く練習を行って、右側は、各漢字が書くときの注意点(字の形、筆画の長さなど)が書かれている。下は自由練習である。



図1 「一去二三里」本文⁷



一 去 二 三 里 四
五 六 七 八 九 十

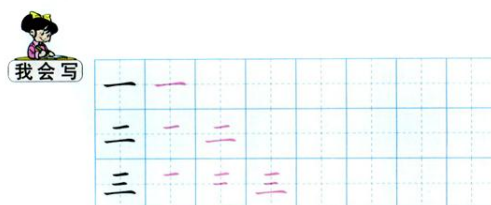


図2 「一去二三里」本文⁸

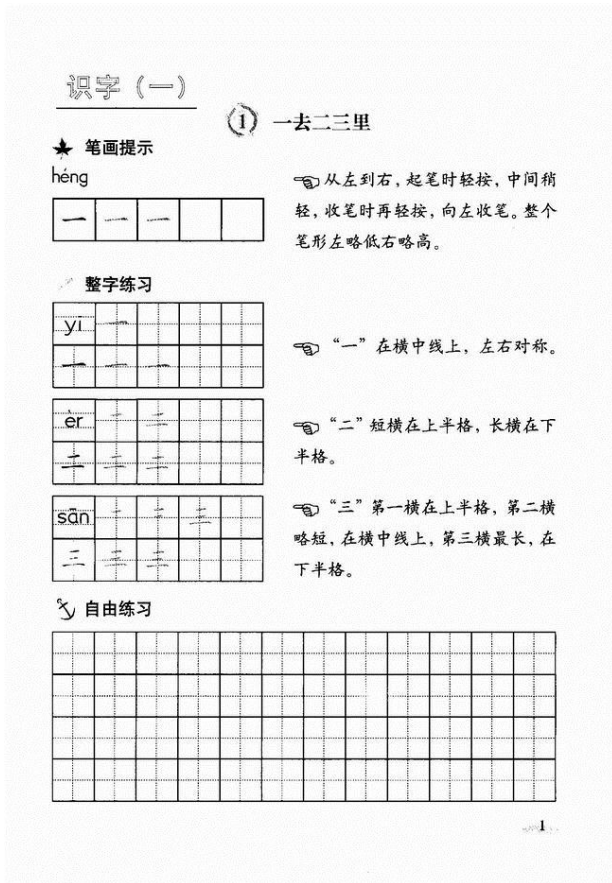


図3 「一去二三里」書写練習⁹⁾

4.3. 教科書『語文』第一冊に関する考察

教科書『語文』第一冊に関する考察を行う。7つあげられる。

一つ目に、一番簡単な常用の漢字から勉強することである。「漢字表 2」から見ると、書けるという求める漢字の大部分は独体字であり、一番筆画が多い漢字は 8 筆画しかない。そして、毎本文は 3~4 字を書くことを求めている。その中の共通点として、「先横後縦」、「先撇後捺」¹⁰⁾、「上から下」筆順の規則がある。

二つ目に、教材は多様な形式を採用して漢字を勉強することである。たとえば「言葉園地」第 6 問-「私は知っている」という形式で、知っている名字は色を塗る。問題の中で三つの花が描いてあり、各花の上 10 字がある。全部は 30 名字、しかし、勉強した漢字は 4 つ(白、馬、田、高)しかないである。他の 26 名字は、子どもたちは知っている名字は色を塗って、読ませる。このように、子どもたちが主体的に漢字を知することを励まし、そして、この練習をした後、子どもたちは多く常用名字を知ることができた。

三つ目に、漢字に関する 1 つの領域「漢詩」も教材で出ていることである。たとえば、テキスト 6 の「静夜思」(李白)は日本でもよく知られた漢詩である。「床前明月光/疑是地上霜/举頭望明月/低頭思故乡」。

窓から明るい月光が射し込んでいる。地上に降りた霜かと思わせる。頭を上げて遠くの月を望むと、同じ月を見ている故郷の人々を思う。第一冊に出ていることから、内容理解よりも、1 年生の時から中国のすぐれた古典文化に直接ふれさせるという方針であるようだ。伝統文化の継承という役割である。しかし、漢詩は 1 つテキストのみである。このような低学年向き、理解しやすい詩を増えることが必要だと考えられた。

このような漢字と関連する漢字文化に関する歴史・知識も勉強が必要である。古詩の充実は、伝統文化特に漢字・漢文化の継承をとおして、その言語表現に学ぶ、というねらいもあったと思われる。たとえば、中・高学年でも地名や新出漢字にはピンインのルビがふられている。音声言語としての配慮からである。

四つ目に、教材の編集システムを改善する必要があることである。この教材の中で大部分の内容は生活に関する文章である。生活に関する文章を勉強する必要があるが、1 年生の子どもに向け面白い内容も大切である。たとえば、ゲームしながら勉強できる教材、視聴覚教材(映画、アニメ、もの展示)など、さまざまに工夫する必要があると考える。

五つ目に、この教材の中で、色のついた絵や写真は教科書の各部分にまとめて載せられているが、日本の教科書と比べると、かなり素朴なことである。特に、漢字の書面練習デザインが古い、訓練の内容と形式もまったく同じであり、単一のイメージを筆者の頭の中に残っていた。

六つ目に、子どもが漢字に興味を持つ内容が少ないことである。この教材は確かに漢字を習得する文章がさまざまな領域で広がっている。しかし、漢字の自身はどんな魅力があるのかを全く紹介されていない。たとえば、最初で漢字を勉強するとき、漢字の起源、発展及び今の世界で漢字がどんな影響をもたらすのかを簡単な文章と面白い図が教材として入れば、子どもは漢字を勉強する意欲が強くなるのではないかと考えられる。

七つ目に、全体的に学習量が多く、内容も濃いことである。一年生が学ぶ一冊目の教科書ながら、古詩を含め暗唱を要求される課文(詩)が 19 篇もある。ピンインの学習は教科書の中程から始まるが、それまでも使われているから、すでにピンインは理解していることが前提となっていると思われる。実は中国の現行の語文課程標準では、1 年生と 2 年生の間に 50 篇の詩文を暗唱し、1600~1800 字の常用漢字を理解でき、そのうち 800~1000 字は書けることが要求されている。日本の学習要領で定められている、1 年生が学ぶ漢字の数は 80 文字、2 年生は 160 文字である。中国は漢字の国だから、単純には比べられないが、中国の小学生に課せられている学習要求は相当高いと言えるだろう。

5. 今後の研究

今後の研究で、まず、漢字政策と漢字教材の視点から中国の漢字教育を考察するだけでなく、漢字を勉強する中国の小学校へ直接に取材し、現在、小学校「語文」という授業はどんな様子、漢字を子どもにどう教えるのかを伺いたい。そして、中国で学校現場へ行くことだけで終わらせずに、日本の小学校で「漢字」を教える現場に行き、考察する必要があると考えられる。さらに、中国と日本の漢字を教える様子・方法を比較し、中国の小学校の漢字教育のメリットとデメリットを指摘する。このように、より良い漢字の教学の内容を提案したい。

そして、漢字教育の教材の視点から、小学校 2 年生～6 年生における漢字の教材分析する必要がある。その上、台湾、日本、シンガポールなど漢字を使用している国の漢字教材の参考も重要であり、これから幅広い漢字教材を整理し、分析する必要があると考えられる。

合科学学術院 学術研究（人文科学・社会科学編）第 60 号、第 3 卷、pp.180-183
 义务教育课程标准实验教科书、语文、一年级上册（中国語）
<http://www.pep.com.cn/xiaoyu/jiaoshi/tbjx/kbjiaocai/tb1s/>（2014 年 1 月 16 日確認）
 丁秋娜（2010）「中国の国語教科書の研究—初級中学の場合を中心に—」、早稲田教育評論 第 24 卷第 1 号、p.115
 足立悦男・郭丹（2007）「中国・小学校国語教科書の詩」、教育臨床総合研究 6、p.113
 全日制义务教育语文课程标准（实验稿）（2004）（中国語）、中学语文教学资源网 教学文摘
<http://www.ruiwen.com/news/21376.htm>（2014 年 1 月 16 日確認）

¹ 1957 年上海生まれ、現在、吉林大学の副学長、中国文字研究会の会長、中国殷商文化学会理事、中国学位と大学院生教育学会理事である。

² 手書きするのは自分の名前だけ！中国の若者、「漢字離れ」顕著に一独紙

<http://www.recordchina.co.jp/group.php?groupid=67278>
 （2014 年 1 月 16 日確認）

³ 1968 年版の小学校学習指導要領では、例えば「第 1 学年では 70 字を読めるようにし、そのうち 40 字を書けるようにする」といったように、読める字数と書ける字数に差をつけた。「読み先行、書き追従」という言い方は「本来、基礎・基本は『読み書き一致』—学習過程で『読み』先行『書き』追従も」（小林一仁『教育科学 国語教育』（2001 年 8 月号、No.610、明治図書、pp.5-7）を参照した。

⁴ 李軍（2012）「中国における建国後の漢字教育政策の変容—「教学大綱」から「課程標準」へ」、早稲田大学 教育・総合科学学術院 学術研究（人文科学・社会科学編）第 60 号、第 3 卷、p.181

⁵ 李軍（2012）「中国における建国後の漢字教育政策の変容—「教学大綱」から「課程標準」へ」、早稲田大学 教育・総合科学学術院 学術研究（人文科学・社会科学編）第 60 号、第 3 卷、p.182

⁶ その言語に特有の韻律の規則に従い、詩の行を形づくるように配慮して書かれた文章。

⁷ 人民教材出版社、課程教材研究所

http://www.pep.com.cn/xiaoyu/jiaoshi/tbjx/kbjiaocai/tb1s/201009/t20100915_895233.htm（2014 年 1 月 29 日確認）

⁸ 人民教材出版社、課程教材研究所

http://www.pep.com.cn/xiaoyu/jiaoshi/tbjx/kbjiaocai/tb1s/201009/t20100915_895232.htm（2014 年 1 月 29 日確認）

⁹ 人民教材出版社、課程教材研究所

http://www.pep.com.cn/xiaoyu/jiaoshi/tbjx/xzjc/tb1s/201008/t20100818_666216.htm（2014 年 1 月 29 日確認）

¹⁰ 左はらいは右上から左下に向けられており中国語で「撇」、右はらいは左上から右下に向けられており中国で「捺」という。

引用文献

李軍（2012）「中国における建国後の漢字教育政策の変容—「教学大綱」から「課程標準」へ」、早稲田大学 教育・総

